

グリーン・ピックス

北海道立林業試験場

28

防風林の防風効果と葉の役割

防風林は幹、枝、葉が障害物となって風を弱め、作物、ビニールハウス、家屋、土壤などを強風から守ります。特に葉があるのとないのでは、風の弱まり方に大きな差が生じます。図-1は、ヤチダモ防風林の周辺で、落葉期と着葉期に風の弱まり方を観測した例ですが、同じ防風林でも着葉期では相対最小風速が約30%、落葉期は約60%になりました。この防風林は林帯幅が比較的広く約40mあるため、葉がなくても幹と枝で何とか風を防いでいますが、葉がある時期とない時期では大きく効果が違ってきます(写真-1、2)。これが幅の狭い防風林であった場合には、落葉期にこれほど強風を弱められず、葉の量が大きく効果を左右するでしょう。

(道東支場)

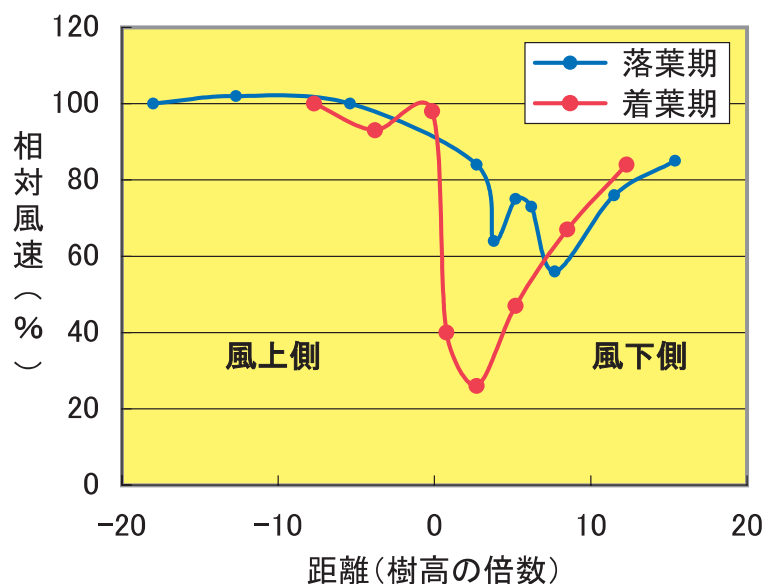


図-1 落葉期と着葉期の風の弱まりかた



写真-1 葉をつけたヤチダモ林



写真-2 葉を落としたヤチダモ林